

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

### 【概要】

#### ■開催日時

令和6年6月21日（金）10:00～12:00

#### ■プログラム

1. 開会
2. 議事
  - (1) 第4回自然環境活用部会の報告
  - (2) 地域づくりや利活用に関する方策案
  - (3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクトについて
  - (4) 自然環境活用部会全体に係る取組について
  - (5) 行動計画（2030）策定に向けた検討
  - (6) その他
3. 閉会



第5回自然環境活用部会の様子

### 【福島潟モデルプロジェクトについて】のご意見

- 取組の展開について、いままで個々でやっていたものが、部会の取組、あるいは全体的なブランドビジョンを示すことで徐々に連携をとりだし、点と点が面の観光資源として育ってきた印象。より広域の観光エリアとして認知されるように取組たい。
- 福島潟のインバウンド向け観光誘致の取組に対して、新潟観光コンベンション協会が実施主体の今年度・単年度業務で観光庁から大きな額の補助金の認可が下りた。福島潟食文化ということで、ここでしかない希少価値を提供していきたい。
- 福島潟はかなり動きだしているので、自然環境部会で洗い出したガン・ハクチョウに関連した重要な地域においても、引っ張ってってくれる方を部会のオブザーバーとして参加していただくなど、どんどん繋げていくのがいいのではないかな。

### 【指標種、生息環境について】のご意見

- コウノトリは指標種には入っていないが、数年後には飛来してくると思われる。大型鳥類の生息環境について農地が非常に重要になるので、JAとも連携拡大が必要。トキやガン・ハクチョウ、コウノトリも視野に入れた協議については、土地改良区や、地方自治体の農業政策部門の行政担当者に加わっていただき、専門的な意見交換をする必要があると思う。
- 中干の時期、秋耕の取組については指標種の生息環境に大きく影響を与えるので、対応を検討いただきたい。
- 有機栽培米は、科学的なデータに基づいて安心安全を保障し、説明していくことで理解が得られ、地域のブランディングになる。

### 【環境学習について】のご意見

- 関東エコネットでは、市内・県外の学校と連携してオンラインでの意見交換会をしているとのこと。まずは新潟で同様の授業を行っているような小中高と意見交換をし、刺激的なネットワークを創っていくのがいいと思う。核になる人を決めて動くといい。

### 【えちごエコネットの取組について】のご意見

- 越後平野で『こういう資源がどれくらい存在しているのか？』といった評価もあってよいのではないかな。潟料理に関する食文化や、観光につながる資源が枯渇しないように、資源評価の視点も重要だと思う。治水事業が経済を動かすという発想で。
- 瓢湖はハクチョウの訴求が一番強くグッズ等もハクチョウがメインだが、ハクチョウ以外にも魅力的な鳥がいるということを四季を通して伝えられるといい。また、周りのエコネットの方々とともに、潟フェスのような場でPRできたら一番良いと思う。
- SNSについて、新潟県観光協会さんなどの分析ツールやノウハウもいただいて分析しながら、学生たちが発信できるようなプラットフォームを作っていただきたい。
- 新潟市がカバーできない、越後平野の情報をガイドブックという形で作成することで、広報や普及啓発に使えると思う。
- 各地の生態系ネットワーク形成の取組について交流を持つ場を、見学会や交流会という形で企画願いたい。

### 【その他】のご意見

- 来年度9～10月に応用生態工学会の全国大会を新潟で開催する可能性が高い。同大会の市民向け公開シンポジウムの題材を生態系ネットワークにし、当該事業が広く市民に理解されて拡大していくようなきっかけにできれば。

# 第5回 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 概要

- 越後平野において、トキ・ハクチョウをシンボルとして、その安定的な生息に向けた地域間の情報交換や様々な活動を通じて、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すことを目的として、令和元年7月に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立
- 「行動計画骨子」案について、有識者をはじめとする皆様からご意見・情報提供を頂くため開催。

## 【概要】

### ■開催日時

令和6年7月31日(水) 15:00～17:00

### ■プログラム

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
  - (1) 規約の改定(案)
  - (2) 前回(第4回協議会)の報告
  - (3) 生息環境検討部会の開催報告
  - (4) 自然環境活用部会の開催報告
  - (5) 行動計画骨子(案)の意見照会結果について
  - (6) 今後のスケジュール(案)
4. 閉会

## 【前回(第4回協議会)の報告】等のご意見

- ・ 生態系ネットワーク形成事業は、あくまで生物を主眼にしているが、流域の治水や経済の活性化も含まれるものである。
- ・ 災害リスクのある地域は、リスク部分のみ強調されがちだが、恵みもある。大型鳥類が生息できる環境であるという理解と、それらを受け入れる地域性を育むことが、若い人たちに自分たちの地域の良い所として認識されるものになっていくと思う。
- ・ 佐渡市は市長がトキの効果を理解しながら市政を引っ張っていると思う。恵みはその地域の人材を育むことにもつながるので、越後平野の市町村の首長さんにも直接協議会にはいっていただきたい。
- ・ 重要な拠点が見えてきたら、その場所をOECMという形で認定して30/30のなかに組み込んでいくような展開を、市町村、県に意識していただき、横串でつながっていただきたい。

## 【部会の開催状況報告】等のご意見

- ・ 潟フェス2024は、生態系ネットワークが地域活性に結びつくということが住民の皆様にご理解いただける内容であった。また、関係自治体と連携した取組の一步を踏み出したという意味で意義が大きい。
- ・ 自然環境の保全や地域づくりなど、縦割りで取り組むのではなく、各行政が連携し統合して進める方が効率が良い。
- ・ パネル展示については、協議会の場に展示して委員の方に内容を揉んでもらったり、JRや航空会社に働きかけて展示してもらっても良いのでは。PRしていただけるような組織に加わっていただき、みんなで情報発信していくことを考えていく。
- ・ ハクチョウのいる景色など、観光資源として魅力的であることを理解し、多くの方に情報発信されることで、活気づくと良い。
- ・ 福島潟モデルプロジェクトで実証実験を行ったが、新潟の魅力の伝え方について、もう少し検討が必要なのではないかと思う。
- ・ 他地域の生態系ネットワーク事業で、コウノトリやタンチョウを指標にした取組を行っている地域で活動されている方々との意見交換はえちごエコネットに寄与すると思うので、そのような機会があれば、協議会関係者にはぜひ参加いただきたい。
- ・ 新潟観光コンベンション協会では観光庁の予算が付き、事業化に向けた取組が始まる。潟の恵みである、ヒシやハスの実の利活用の検討がされているので、多自然川づくりの一環で、潟の恵みを創出・保全する考え方も必要になってくるだろう。
- ・ 指標種の意識付けが県民にできていないなかで、意識向上をどのように進めていくかについて議論できれば良い。

## 【行動計画骨子(案)の意見照会結果について】等のご意見

- ・ 河川事務所が自分たちで管理している箇所で行うような取組を、もっと踏み込んで提示した方が良い。
- ・ ガン、ハクチョウ、トキを指標にしながら、彼らにとっての必要な生態系ネットワークを考える観点で、川づくりなどの事業、農地や森林との関りなどについての戦略的な見通しが必要だと思う。
- ・ 農業担当の方から、当該事業に呼ばれた意味が分からないという意見について、連絡調整会議の中で説明していただきたい。
- ・ 越後平野の中で農地がどう関わっていくのかがビジョンとして見えないので、具体的な話をお互いに行いければいいと思う。
- ・ 議論は室内だけでなく、現場で起こるものでなければならぬと思うので、市民向け公開シンポジウムを開催し、首長さんに参加いただきながら今後の目指す方向を可視化しても良いのではないかと。
- ・ 阿賀野川中流域は日本屈指のハクチョウの飛来地。環境と利活用のポテンシャルをあらためて再認識するとともに、鳥類の生息に影響がない形で阿賀野川のワイズユースに取り組んでいただきたい。
- ・ 道の駅などを活かして、地域を盛り上げていくことも良い。



第5回協議会の様子